

2013年度（第10期） 事業報告書  
(2013年4月1日から2014年3月31日まで)

特定非営利活動法人アーシャ=アジアの農民と歩む会

## はじめに

今年度、本会が重点的に行ったことは「農村のひとづくり」である。その結果、アラハバードの活動地において、多くの住民がより積極的に、且つ主体性を持って活動に参画するようになった。これは本会と継続教育学部（マキノスクール）が協働で「農村の人づくり」支援を継続的に行ってきた結果である。育成された人材は農村の貴重な財産として蓄積されている。この財産を活用して更に充実した活動が継続できたことは今年度の大きな成果であったといえる。

本会設立10周年の節目に、上記の成果を得られているということは、当会の設立趣旨書に記載されている「アジア農村の人々の自立と持続可能な暮らしの促進に協力支援し、アジア農民と共に生きる」という趣旨に向かって邁進している証でもある。本会にとって大きな喜びである。また、国内に於いても、アーシャ交流センター開設2年目に伴って、国内活動や作業は以前に比べより多忙になってきた。これはNPO法人として、深みのある活動を目指し、且つ、他団体との協働で活動するためには必然的なことであった。

今年度は本会と公益法人・全国愛農会との協働により、2014年2月にインドスタディーツアーが実施され、16名もの参加者があった。そのほとんどの方々がアーシャやインド事業に対して賛同していただき、本会に入会し、寄付金を寄せられた。本会のような小さなNPO法人は他団体との協力、協働の道をより積極的に考える必要性を感じた。その方がよりダイナミックに且つ効果的に目標に向かって活動できると考えるからである。今後、他の団体のビジョン、目的等を吟味しながらその道を切り開いていく必要がある。

最後に、上記の掲げられた活動は多くの方々、教会、団体、JICA等のご支援、協力、そして協働が得られて成しとげられたことである。ここに心から感謝したい。

# 1. 農村開発・農業開発支援事業

## 1-1. 環境保全型 鴨・稲作同自作 普及システム構築

有機農法で水稻栽培するには、水田での除草及び害虫対策という難問な壁を乗り越える必要がある。その対策法として 2013 年 1 月より、アヒル水稻同時作（在来種のアヒルを利用）を継続教育学部の実習圃場で行い、同年 8 月には有機農業を志す農家 5 名が参加してその試験栽培を行った。また、以下の内容でセミナーを開催した。

セミナー名	Seminar on integrated rice and duck farming (鴨稲同時作セミナー)
日程	8 月 19 日から 25 日 (7 日間)
主催	継続教育学部、アラハバード有機農業組合
講師	合鴨水稻同時作の第一人者 古野隆雄氏、古野久美子氏
参加者	アラハバード有機農業組合会員約 30 名、継続教育学部学生 8 名、スタッフ 8 名、その他タミールナドゥ州の大学教授、ウッタラカンド州の NGO スタッフ、またオリッサ州から有機栽培農家 2 名、総勢約 50 名
内容	講義：アジア・日本、ヨーロッパで実践している農家のスライド、データを示しながら、鴨による除草、除虫効果、刺激効果、有効な水管理等の多岐に渡る技術、考え方等 実践：実際に田んぼに出向き、鴨や野ビエを手にとって、デモンストレーションしながら詳細な除草、防虫技術についての解説。また、アヒル肉の料理、アヒルの人口孵化技術の技術指導（古野久美子氏）

セミナー期間中、古野氏は同時作を開始した農家の田んぼを参加者と一緒に回り、北インドに於ける同時作の問題点、特に鴨（アヒル）の外敵対策、適切な水管理について様々な角度から助言をしてくださった。短い期間ではあったが、セミナーを通し同時作の真髓の深さ、難しさを感じ取ることができた。

当セミナーの 1 か月後、同時作を始めた栽培農家の田んぼを農民と一緒に巡回し、アヒルの外敵による被害状況を調査した。古野氏が心配していたカラスの被害は無かったが、野犬、蛇、猫、ヤマネコ、人（盗難）の被害が確認された。また、11 月下旬の収穫時期に 3m×3m の田んぼの収量を調査したが、アヒル水稻同時作の効果はまだ顕著にみられなかった。それは雛を放す時期、雛の単位面積当たりの数等、まだまだ学ぶべきこと、改善すべきことがあることを示唆している。アヒルの肉はインドでは高値で取引され、アヒルの水田での除草、防虫等の効果が高いことを鑑みれば、有機農業推進のために有効な農法の一つであると考えられる。人口孵化技術を含めた同時作システムの構築を確実なものにするために、今後より一層の研究、改善が必要である。

## 1-2. 持続可能な農業・農村開発コース (SCSAD) 運営支援および研修所の環境向上

実施期間	2013 年 7 月 1 日～2014 年 4 月 3 日
研修生人数	8 名 (4 月 3 日に全員卒業) インドおよびミャンマーの学生は主に教会、NGO から送り出された農村草の根ワーカーであったが、日本からの研修生 2 名は、農業高校を卒業した者、大学を休学し当コースに入学した者であった
研修内容	有機農法を軸にした持続可能な農業・農村開発研修を実施。具体的には、有機農法による野菜作物の生産から加工・販売に至るまでの実践的な研修、英語やパソコン等の習得、様々な活動の企画・実施方法を学んだ。また、リー

	ダーとしての能力を高めるための、異文化環境での共同寮生活も研修生にとっては大きな学びであった。
卒業生進路	インドおよびミャンマーの学生は、それぞれの送り出し団体に戻り、有機農業普及、農村女性の地位向上、または農村開発を行う草の根リーダーとして着任。日本人卒業生は、それぞれ大学入学・大学復学となった。
その他	現在卒業生約 300 名がインド全土、ミャンマー、日本にて活躍中。5 年前から毎年ミャンマー、3 年前より日本からもコースに継続的に入学するようになり、より国際的な研修の場となっている。

### 1-3. 貧困農村住民のための収入向上活動事業

農村の収入向上活動として、今年度は特に農村女子のための裁縫クラス開講支援を行った。継続教育学部によって 2008 年から翌年にかけて設立されたアーシャ農民学校での裁縫教室は 3 年目となった。農村女性が手に職をつけ、経済活動をすることは女性の地位向上、女性の能力開発に寄与していると考ええる。

### 1-4. 持続可能な農業普及支援・SHG 組織作りに対する支援

今年度の持続可能な農業普及支援は前述のアヒル水稻同時作を中心に実施した。また、農村の組織化、作業の効率化、能力向上を図るための支援を行った。さらに、従来の SHG に加え、2013 年度はカリヤン村に 2 つの SHG を設立した。

## 2. 人材育成支援事業

### 2-1. ミャンマー・カチン州の研修生への奨学金

ミャンマー・カチン州出身の Ms. Zawng Nyoi Dabang に対してサムヒギンボトム農工科学大学家政学部で勉強するために奨学金を供与した。彼女は 2014 年 5 月末に 4 年間の学部履修をすべて終える予定である。

### 2-2. 初等教育施設に通う子供たちへの奨学金

アーシャ学校への支援は本会のみならず、米国長老派教会、日本の教会、個人（紅茶おばさん等）、クリスマス献金、日本の NGO 及びデリーに在住する日本人ボランティア寄付金、等多くの個人や団体の協力を得て、貧困家庭の子ども、約 600 名に奨学金付与（1 生徒、月約 70 円）を付与した。この奨学金の約 10%はアーシャスマイル教育協会に共有資金として貯金し、同協会の運営資金にしている。

### 2-3. へき地農村学校の自立運営に向けた統合的教育支援事業

貧困家庭、特に低位カーストの初等教育事業支援は今年度においてアーシャ学校 3 校を中心に行った。幼稚園から 10 年生までの児童生徒約 650 名がそれぞれのアーシャ学校（ギーンジ校 410 名、カンジャサ校 120 名、マエダ校 120 名）に在籍し、学んだ。ほぼ全員の生徒は農村の貧困家庭または社会的地位の低い季節労働者、単純労働者の家庭、又は不可触民カーストと呼ばれる被差別民家庭の子どもたちであった。

今年度においては特に主体性を持ってそれぞれの学校教師が学校運営できるように支援、助言活動を行った。昨年度、それぞれのリーダー的立場の教師がアーシャスマイル教育協会を設立し、学校の運営を自主的に行うことを促した。実際、今まで継続教育学部のスタッフ

が主導していた生徒募集、カリキュラム編成、学校祭は教師と生徒が主体になり実施した。2年前に比べ、より高いレベルで自立的な運営ができるようになった。一方で、本会と継続教育学部スタッフとの協働で、新人教師の養成、教諭のトレーニング、生徒の特別学級・教育キャンプ（女子生徒のための思春期教育）等の支援、助言活動を継続して行った。

また、今年度については新たなアーシャ学校設立は行われなかったが、ギーンジ校の拡張工事、トイレ整備を行った。マエダ校には中庭にコンクリートで床（7m×10m）を作り、新たな集会場を造った。校舎が手狭なので、この場所に屋根を張り、教室や、集会用に使う予定である。アーシャ学校への支援は本会のみならず、米国長老派教会、日本の教会、個人（紅茶おばさん等）、クリスマス献金、日本のNGO及びデリーに在住する日本人ボランティア寄付金、等多くの個人や団体の協力を得て、学校の修理・拡張工事の支援を続けることができた。これはアーシャ学校、教師、生徒にとって大きな励みとなっている。

#### 2-4. 裁縫学校の新規開設・運営支援、裁縫教師の雇用、裁縫によるフェルト<sup>®</sup>製品の開発支援

実施場所 ・期間	3か村で6か月コースの基礎裁縫クラスを開催。 (2008年～2009年にかけて継続教育学部が設立したアーシャ農民学校での裁縫教室は3年目となる)
目的	農村女性が手に職をつけ、経済活動をすることによる女性の地位向上、女性の能力開発
講師	5年以上かけて継続教育学部が育てた農村出身の若い女性
受講者数	裁縫基礎技術コース 60名(2013年度) 裁縫上級クラス(技能が優秀で将来裁縫クラスの教師として有力候補となる学生) 裁縫基礎技術コース卒業生の中から11名
その他	裁縫上級クラス卒業生の中でも優秀な女性にはアーシャ学校の制服を作る機会を与え、その謝礼として、労働に見合った労賃又は足踏みミシンを供与。裁縫教室は村で定着しており、多くの農村女性が待機している状況。彼女たちの技術を生かし、小物入れ、入浴剤のバッグ、アーシャ学校の制服づくり等の支援を実施

### 3. 農村保健衛生改善支援事業

#### 健康栄養・農村母子保健の事業支援

「政府関係機関スタッフと農村保健ボランティアの協働による統合的母子保健事業（JICAとのパートナー事業）」では、現在、アラハバード県内の2つの郡（人口約38万人）で、ボランティアが政府機関保健ワーカーと協働することによる母子保健事業を展開している。この事業は農村住民の保健の向上のみならず、農村女性の社会的地位の向上、女性の能力開発という意味においても意義ある活動と考える。

保健師・助産師であるアーシャ派遣専門家・三浦孝子が、農村女性を保健ボランティアとして活動できるよう、技術指導・助言活動を実施。事業がスタートした2013年1月時点では、村で活動している農村ヘルスボランティア（VHV）又は育成中ボランティア（VHA）は12名であったが、2013年度末には35名まで増員した。

協働のために政府関係者との話し合い、計画は時間の概念、活動時間帯の違い等で非常に難しい面もあるが、双方が歩み寄りながら活動を続けている。ボランティアの意識の高揚があり、徐々に年度毎の目標はほぼ達した。事業の技術指導及び助言活動のために、本

会からは専門家として三浦孝子を8～9月と1月下旬から4月上旬まで現地に派遣した。農村での活動は極力専門家や継続教育学部のスタッフがいないでもVHVだけで、活動ができるように指導している。幸い、本会派遣スタッフ・専門家と現地スタッフ及びボランティアとの信頼関係が構築されつつあるので、困難な問題にあっても皆の協力で乗り越えることができた。一方で、現地人ヘルスプロジェクトコーディネーターが昨年、3人入れ替わったことは憂慮すべき点であった。高学歴で、技術を持ち且つ長期間農村のために働くとする若者が非常に稀であることを再認識した。このような社会風潮があるからこそ、農村ヘルスボランティアのような農村のリーダーとなりうる「ひとづくり」が重要であることを再認識した。

## 4. 事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報活動

### 4-1. ワークキャンプの開催・研修ツアー・訪問者受入

研修ツアー	インドスタディーツアー
日程	2013年9月9日(月)～9月22日(日)14日間
催行	問合せ、希望者はあったが、催行人数(5名)に達しなかったため、実施せず

研修ツアー	インドの食と健康を学び 収穫の喜びをわかちあう旅 9日間
参加者	16名(愛農会より14名 当会より2名)
日程	ツアー内容により2グループにて開催。 2014年2月18日(月)～2月25日(日)8日間(11名) ～2月26日(日)9日間(5名)
企画	アーシャ＝アジアの農民と歩む会・愛農会 共同企画
内容	希望学校、裁縫教室、母子保健や農業改善センターのプロジェクト地見学、現地の人々・学生・子供たちとの交流 収穫感謝祭への参加、外部講師による特別セミナー、展示や料理のデモ、組合食品の即売会参加 バナナシ・デリー観光 or ニーム研究所訪問

### 4-2. 会報の発行

例年通り、アーシャの活動、継続教育学部のプロジェクトをより広く理解していただくために、年4回、会報を発行した。これらの編集、印刷、送付はインドにて行った。年間の発送数は延べ2000部であった。

### 4-3. ホームページ等での広報

国内事業強化のため、アーシャ職員 君嶋みのりにより、本会ホームページの更新作業、アラハバード有機農業組合ホームページ更新作業を行った。さらに、Facebook、Twitterでの情報発信も行い、当会の活動を広く知っていただくためのツールとして活用した。

これらの広報活動が功を奏し、有機農産物に関する問い合わせ、セミナーへの申し込み、現地スタッフ、ボランティア、インターン、スタディーツアーに関する問い合わせが増えていく。加えて、支援いただいているJICAや助成団体への本会の活動紹介とアピールをするためにも、今後もホームページを充実させることは重要であると思われる。

### (1) ホームページ

日本語版・英語版ホームページ 必要に応じ随時更新。  
アクセス数は世界各地より、約 1,000 アクセス/日 (2014.4.23 のデータによる)

### (2) Facebook

2012年8月より Facebook に当会の登録を行い、2013年度記事投稿数 117件 合計リーチ数(投稿を見た人の数) 40,277件。「いいね!」数 180件(2014年4月24日現在)  
不特定多数の方々に情報を提供する有益なツールと考え、今後も投稿を継続する。

### (3) gooddo (グッドウ)

gooddo とは、誰でも社会貢献団体を支援することができるサイトで、現在 100 団体以上の社会貢献団体が登録している。2013年9月より当会も登録を行い、2014年5月時点で 5,000 名の方が訪問され、その方々のクリックで約 2 万円の広告協賛費が得られている。ぜひ会員の皆様にもサイトにアクセスし、当会を応援するクリックをしていただきたい。

### (4) twitter

140 文字以内の短い投稿(ツイート)を入力して、みんなで共有するサービス。2012年8月より登録を行い、2013年度は約 100 件のツイートを行った。当会のツイートがあれば随時確認できる設定をしている方々(フォロワー)は約 300 名。今後も継続して情報提供をしていく。

## 4-4. 10 周年記念事業 活動紹介ビデオ、記念セミナー開催、ロゴ作成、記念誌作成

### (1) 活動紹介ビデオ

当会の活動を記録し、後世に残すため、また、セミナー等での活動紹介やホームページへの掲載により、会への認知度向上、活動の理解促進を図るため、活動紹介ビデオの作成を行った。ビデオの製作は本会理事の佐藤耕士氏に依頼し、2014年1月29日～3月12日(43日間)アラハバードに派遣。撮影、音声録音、ビデオの製作を行った。今後、現地の様子を多くの方に伝えるツールとして役立てたい。

### (2) 記念セミナー開催

2014年6月14日(土) JICA 地球ひろば(東京市ヶ谷)にて開催予定。

2013年度は会場確保、セミナー内容検討、チラシ案などを作成。セミナー実施に向け、2014年度も作業を継続する。

### (3) ロゴの製作

10 周年を記念し、本会の顔となるロゴマークを作成した。製作は、イラストレーターの三浦友萌氏に依頼した。本会の活動をイメージしたすばらしいロゴが完成した。2014 年度には、会報やパンフレット、ホームページ、名刺、チラシ等に活用し、当会のイメージ戦略の一つとする。

#### (4)10 周年記念誌製作

アーシャが発足するまでの経緯や、活動の歴史、年表、写真を元に、記念誌を作成する。2013 年度にはヒアリングを行い、過去の写真を集め、編集作業をスタートしている。当会の 10 年間の集大成とした記念誌とし、今までのアーシャの歴史を振り返るとともに、その実績を多くの方々に広め、今後の活動に活かす計画である。

#### 4-5. 日本国内における学生及び市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、及び参加

以下のセミナー、ワークショップ、絵画展を実施した。

セミナー名	持続可能な農業普及と母子保健プロジェクト ～北インドの農民・農村女性の挑戦～
日時	2013 年 5 月 25 日 14:00～17:00
主催・後援	主催：アーシャ＝アジアの農民と歩む会 後援：JICA 地球ひろば、JANIC
参加者	国内 NGO スタッフ、学生、助産師、看護師など、総勢約 40 名
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーシャ活動紹介</li> <li>・持続可能な農業の戦略とその普及活動～実践的有機農法、戦略的農産物、そしてその加工品から活路を生み出す～ 講師：三浦照男</li> <li>・農村における農村保健ボランティアの育成と母子保健活動～一滴の母乳から赤ちゃんの命を守る～ 講師：三浦孝子</li> </ul> 他、笑いヨガ、アラハバード有機農業組合製品紹介、懇親会

ワークショップ名	モロヘイヤパウダー・モリンガを使った料理教室
日時	2013 年 10 月 23 日 10:00～12:00
スタッフ	三浦孝子 丹羽寿美 君嶋みのり
参加者	「たんぼぼママのおしゃべり会」会員 大人 9 名、子供 9 名
内容	チャイ、モリンガクッキー、モロヘイヤスープの調理、モロヘイヤパン・モリンガ白玉の紹介、試食、アーシャ活動紹介

イベント名	「インドと日本の子ども達の絵画展」～子供達の国際交流の架け橋に～
日時	会場：イオンザビッグエクストラ那須塩原店（那須塩原市） 日時：2013 年 12 月 13 日～17 日（火） 10:00～21:00 会場：那須野が原ハーモニーホール（大田原市） 日時：2013 年 12 月 21 日（土）～24 日（火）
スタッフ	丹羽寿美 君嶋みのり
動員数	インド・日本の子供たちが「私の家族」「私の夢」というテーマで描いた絵 61 点の絵を展示。絵画展に常駐できなかったため正確な人数は把握できなかったが、不特定多数の方々にご来場いただいた。
内容	インドの子供の絵 31 点、日本の子供の絵 30 点の展示、現地の活動の様子を展示、来場者へのインドへのメッセージカードの依頼、アラハバード有機農業組合の商品紹介・展示。
備考	日本の子供たちの絵はアラハバードでの学園祭で展示された。また、絵を書いてくれた子供たちにプレゼントを贈呈した。

#### 4-6. 次期事業形成調査

本会理事であり、現地事業総責任者である三浦が6月中旬から下旬にかけて、愛農会関係者及び支援者と会い、今後の連携方針について話し合いを持ち、次期事業形成のための調査、連携強化を図った。また、12月には日本でのモリンガの栽培状況、マーケティングのため、沖縄、九州にて視察、情報収集を行った。これらのノウハウを、今後の収入向上事業に活かす。

### 5. 緊急支援活動事業

今年度は実施されなかった。

### 6. その他事業 手工芸品等物品販売事業

2013年度より、収入向上支援、調査、販売、新製品開発、収入向上事業推進のためのマーケット開発・販売活動をスタートした。

#### 6-1. マーケット開発・新商品製作

現地派遣スタッフにより、帰国時に日本でのマーケット開発を行った。また、裁縫教室の女性たちの収入向上に役立つ新規商品開発にも着手。リサーチ、デザイン、試作を行い、2013年度には岩塩、モロヘイヤパウダー、モリンガパウダーの外袋となる巾着袋をデザイン、製品化した。巾着袋にはヒンディー語で「希望」「愛」「平和」とプリントされている。今後もさらなる商品を企画するべく、リサーチを継続する。

#### 6-2. 日本国内での販売

国内スタッフは、収入向上支援のためアラハバード有機農業組合にて生産された商品を中心に、国内にて販売する支援活動を開始した。インドハーブ入浴剤を中心に、岩塩・モロヘイヤパウダー・モリンガパウダー、インド雑貨をイベント、卸売、希望者へ販売した。2013年度実績は以下の通り。

<イベント出店・委託販売>

- 6/11(火) 那須友の会 友愛セール (那須塩原)
- 6/15(日) 西那須野教会バザー (那須塩原) : 委託販売
- 6/30(日) 那須ガレージセールめぐり (那須町)
- 7/6(土) いいものバザール (宇都宮) : 委託販売
- 5/11・6/8・7/27・8/24・11/23(土) 大日向マルシェ (那須町)
- 5/19(日) フェスタmy宇都宮 (宇都宮)
- 10/12(土)・13(日) アジア学院 収穫感謝祭 (那須塩原市)
- 10/19(土) 那須塩原市産業文化祭 (那須塩原)
- 10/26(土) 那須インド☆フェスティバル (那須町) : 台風のため中止
- 11/3(日) とちぎ県民協働フェスタ (宇都宮)
- 11/9(土) フェアトレードまつり (宇都宮)
- 12/17(火) 那須友の会 友愛セール (那須塩原)

君嶋・丹羽2名と飯沼副理事、ボランティアスタッフ4名でこれらのイベントに出店した。アーシャの活動を多くの方に知っていただき、身近にインドを感じていただけたこと、また、アラハバード農業組合の商品を多くの方々にご購入いただけたことは大きな成果であった。

## <卸売販売>

インドハーブ入浴剤を中心に 2013 年度 5 店舗 約 200 個販売。  
2014 年度も県内を中心に、卸売取扱店の開拓を進める計画である。

## 7. その他

### 7-1. スタッフ及びインターン

#### ●現地派遣スタッフ

三浦照男 2013 年 4 月～2014 年 3 月：継続派遣予定  
(事業マネジメント、プロジェクト統括)

川口景子 2013 年 4 月～2014 年 3 月：継続派遣予定  
(総務事務、広報、会計、事業形成、学部長補佐業務、SCSAD 講師)

大木恵利 2013 年 7 月～2014 年 3 月：継続派遣予定  
(現地調査、SCSAD 研修事業、プロジェクト形成、学部長補佐業務)

#### ●継続教育学部インターン

大木恵利 2013 年 4 月～2013 年 6 月  
(母子保健事業の農村調査と分析、SCSA 講師、会計)

涌泉香織 2013 年 6 月～2014 年 3 月  
(日本食材のマーケティング開発、食品加工、及び会計補佐)

#### ●日本国内スタッフ

丹羽寿美 2013 年 4 月～2014 年 3 月：継続雇用予定  
(総務・事務、会計、プロジェクト調整)

君嶋みのり 2013 年 8 月～2014 年 3 月：継続雇用予定  
(広報、販売、マーケティング、渉外、総務・事務補助、)

### 7-2. 専門家派遣

2013 年度においてアーシャより派遣された専門家とその期間は以下のとおりである。

#### ●三浦孝子（農村保健衛生改善支援事業）

2013 年 8 月 15 日から 10 月 5 日まで 52 日間

2014 年 1 月 29 日より 4 月 5 日まで 67 日間

#### ●古野隆雄・久美子（鴨・稲作同自作セミナー講師） 2013 年 8 月

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1.農村開発・農業開発支援事業	①環境保全型 鴨・稲作同自作普及システム構築	通年	インド・アラハバード地区	3名	インド・アラハバード地区 30 万人の農村住民	1,627
	②持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)運営支援および研修所の環境向上	通年	インド・アラハバード地区	3名	研修生 8 名および研修生の活動地 (インド メガラヤ州、マニプール州、日本)の農村住民各 1000 名	613
	③貧困農民のための収入向上活動事業	通年	インド・アラハバード地区	3名	インド・アラハバード地区 30 万人の農村住民	528
	④持続可能な農業普及支援・SHG 組織作りに対する支援	通年	インド・アラハバード地区	3名	インド・アラハバード地区 30 万人の農村住民	510
2.人材育成支援事業	①ミャンマー・カチン州の研修生への奨学金	通年	インド・アラハバード地区	1名	ミャンマー・カチン州研修生1名およびミャンマーの開発 NGO200 名	109
	②初等教育施設に通う子供たちへの奨学金	通年	インド・アラハバード地区	1名	インド・アラハバード地区 550 名	169
	③へき地農村学校の自立運営に向けた統合的教育支援事業	通年	インド・アラハバード地区	2名	インド・アラハバード地区 550 名	1,350
	④裁縫学校の新規開設・運営支援、裁縫によるフェアトレード製品の開発支援	通年	インド・アラハバード地区	2名	インド・アラハバード地区 550 名 ミャンマー・カチン州研修生1名 SCSA 学生 2 名	519
3.農村保健衛生改善支援事業	①健康栄養・農村母子保健の事業支援	通年	インド・アラハバード地区	4名	インド・アラハバード地区 30 万人の農村住民	11,410
4.事業を推進するための調査研究及び、啓発・広報活動	①ワークキャンプの開催・研修ツアー(2回)・訪問者受入	随時	日本	5名	日本国内 300 名	1,148
	②会報の発行	年 4 回 (6・9・12・3 月)	日本・インド・米国	5名	日本国内、インド・米国 述べ約 1000 名	359
	③ホームページ等での広報	随時	日本・インド・米国	1名	日本語・英語が読める不特定多数	563
	④10 周年記念事業 活動紹介ビデオ、記念セミナー開催、ロゴ作成、記念誌作成	随時	日本	3名	日本国内 約 500 名	659
	⑤日本国内における学生及び市民のためのセミナー及び講演の企画、主催、及び参加	随時	日本	5名	日本国内 300 名	356

	⑥次期事業形成調査	随時	日本・インド	2名	日本、インド、ミャンマー	204
5.災害や紛争などによる被災住民への緊急支援事業	緊急支援活動事業	実施なし				
合計						20,124

(2)その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)
バザー・チャリティ事業	実施なし				
手工芸品等物品販売事業	収入向上支援、調査、販売、新製品開発	随時	日本・インド	3名	465
演奏会、展示会、図書出版等の文化事業	実施なし				